
いつだって傍にいる

へたれ向日葵

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

いつだって傍にいる

【Nコード】

N7175F

【作者名】

へたれ向日葵

【あらすじ】

パルスイとさとりとちよっぴり勇儀の短編シリーズとなっております

地霊殿からしばらく出て、綺麗なネオンが灯る街を抜け、そこには一本の河があつた

その一本の川には、木で作られて唯一の橋があつた

その橋には、ずっと一人で、人を妬む橋姫がいた

そして今、私は声をかける

「ご機嫌いかが、パルスィ」

パルスィと呼ばれた少女は、橋の元で振り向いた

いつだって傍にいる 作：幻竜

河の中に足だけ入れており、暗い橋の下で緑色の瞳が輝き、かすかに金色の髪が靡く

「なに、さとり。あなたの周りはいつも楽しそうに妬ましいわね」

「今日は誰もいないでしょう。それに、いつだって楽しいわけじゃないわ」

少し湿った土の上、さとりは腰をおろして足を河の水の中に入れた

「ねえ、今度地霊殿に来ないかしら？紅茶かなんかでも飲みながらお話ししましょう？楽しいわよ？」

「ペットの自慢かしら？まあ、妬ましいわ。第一私は橋姫よ？橋を離れるわけにはいかないわ」

冷たい瞳でさとりを見つめ、返す

「そんなの言い訳でしょう？私には見えるのよ？あなたの心が。何もかも妬んでしまつてはできることもできなくなつてしまうわ」

「うるさいわね。私の何がわかるの？ねえ、言ってみなさいよ」

パルスィはさとりを真正面から不気味に輝く緑色の瞳で見つめた

「浮気……。浮気をされた貴女は妖怪へと変わった。それは辛いでしょう？でも、なぜすべてを妬むの？妬んで何かが変わるのかしら？」

宇治の橋姫。パルスイは、宇治の橋姫そのものであった
鬼とはいかぬものの、彼女は妖怪へと変わっていった
そしてすべてを妬んだ

「私の思いも知らないで知った口を聞くのはやめなさいよ。そう
やって気楽でいられるあなたが妬ましいわ」

「素直になりなさい。あなたはいつも心で泣いている。私はあなた
を助けたいの。あなたの笑顔が見たいのよ」

「…そうやってあの人も言った。ずっと笑顔を見せてくれて、そ
ういった。だけど、違う女に手を出して…お前もそれと同じだろう
…！」

息を荒くし、叫ぶパルスイの瞳には、涙が見えた

さとりは河を歩み、パルスイの元へと歩み寄った

「なら、私を信じて。その彼はあなたを裏切ったかもしれない。だ
けど、私を信じて？」

パルスイをやさしく抱きしめた

「暖かいでしょう？あなたの心だって、いつか私のようになれるか
ら。だから…信じて」

「本当に私は…あなたを信じればいいの？」

「ええ…だから、笑って」

「おお、おお、橋の下を見てみればこりやまたびつくりだねえ…」

いきなり声がかから聞こえ、二人はぱつと離れ、上を見上げる

「ほれ、橋は私が守ってやるから行った行った」

それを見て、パルスイがにこつと笑った

（まったく…話を最初から聞いていましたね…）

さとりはふつと笑うと、河から出た

「それじゃ、行きましよう。地霊殿は暖かいわよ？」

「ええ、すっかり体が冷めてしまったわ」

二人は並んで、ネオンで満ちる街の中を歩いて行った

橋でその姿を見守る勇儀は、酒を煽り豪快に笑った

「あいつが笑うなんて久方ぶりだねえ…。一人で祝うとしようじゃ

ないか」

勇儀は、大きな盃にあふれるほどの酒を注ぐと、天に杯を掲げた

「ここからの橋姫に、乾杯」

そう言っつて、酒を飲み干した

パルスイの笑顔は、それはそれは美しかった…

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7175f/>

いつだって傍にいる

2010年10月9日04時23分発行